

平成27年度全国学力・学習状況調査が4月21日に実施され、大東市の全公立小学校の6年生1,034名、中学校の3年生1,075名が調査に参加しました。調査内容は、国語及び算数・数学の知識に関するA問題と活用に関するB問題、さらに平成24年度以来、3年ぶりに理科を加えての「学力調査」、児童・生徒に学校生活や家庭生活の様子をたずねた「児童・生徒質問紙」、各学校の取り組み状況や教職員の意識についてたずねた「学校質問紙」の3つからなっています。

小学校 学力調査の結果より

国語は、A問題では、漢字を正しく書くことや、文中の主語を捉えること等、B問題では、音読するときの工夫とその理由を書く等、「書くこと」に課題があります。算数は、A問題では分数の四則計算で、正答率が全国を上回る設問もありましたが、「図形」について及び、B問題での各領域で、記述式で解答する設問で無解答率が高くなる等、課題があります。理科は、主として「知識」に関する短答式の設定で無解答率と誤答率が高くなりました。

標準化得点で見ると、算数A(99)は全国とほぼ同様で、国語B(98)と理科(97)は全国との差が縮まりました。

※標準化得点とは、各年度の調査における全国の平均正答数を100とした場合の比較得点

中学校 学力調査の結果より

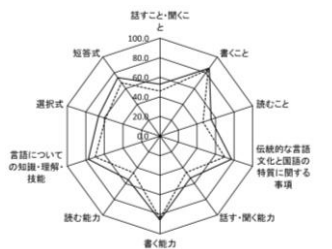
全体的に無解答率が低く解答への意欲がみられました。国語は、A問題では「語句」、B問題では「話すこと・聞くこと」で正答率が全国を上回る設問もありましたが、A問題では「古典」、B問題では「書くこと」に課題があります。数学は、A問題で「資料の活用」等、正答率が全国を上回る設問もありましたが、A問題では「関数」、B問題では「図形」に課題があります。理科は、地学的領域で正答率が全国を上回る設問もありましたが、生物的領域に課題があります。

標準化得点で見ると、国語B(99)、数学A(98)、数学B(98)、理科(98)で、全国との差が縮まりました。

<平均正答率>

..... 大東市
—— 全国

国語A
大東市：62.9%



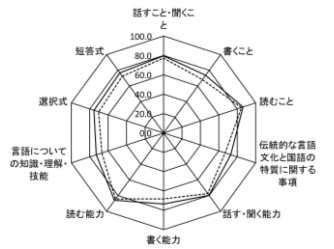
国語B
大東市：58.5%



<平均正答率>

..... 大東市
—— 全国

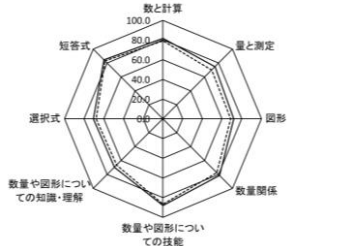
国語A
大東市：71.0%



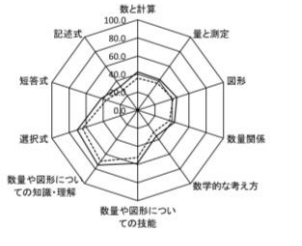
国語B
大東市：63.6%



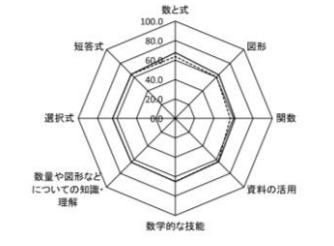
算数A
大東市：72.3%



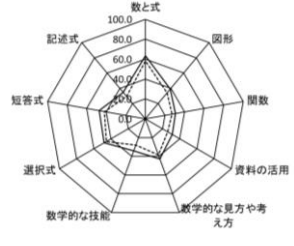
算数B
大東市：39.6%



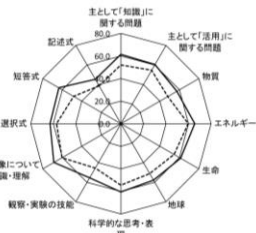
数学A
大東市：60.8%



数学B
大東市：37.1%



理科
大東市：53.6%



理科
大東市：48.3%

